

平成22年度までの県の基本的指針となる 「三重県男女共同参画基本計画」が策定されました

男女の人権が尊重され、性別にかかわらず自分らしく生きることができ、社会の実現をめざし「三重県男女共同参画推進条例」が平成13年1月から施行されています。

そして、本年3月、同条例に基づく「三重県男女共同参画基本計画」を策定しました。

この基本計画の策定にあたっては、「県民の意見を聴く会」の開催などを通じて、皆さんから貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。

県は、この基本計画の達成に向けて率先実行で取り組み、県民、NPO、事業者のみならず市町村等と協働して進めていきます。

位置づけ

○国の「男女共同参画社会基本法」、県の「三重県男女共同参画推進条例」に基づく計画です。

○平成15年度までを計画期間としていた「みえの男女共同参画推進プラン（アイリス21）」はこの基本計画に吸収されました。

○「三重のくまなく宣言」をはじめ、県の各種計画との整合を図るとともに、「人権が尊重される三重をつくる条例」、同条例に基づく「三重県人権施策基本方針」と相互に連携しながら機能します。

○県の施策の基本的な指針であるとともに、市町村との連携・協力、県民、事業者のみならず、市町村との協働を期待するものです。

期間

○平成14年～平成22年度（9年間）

基本的な4つの視点

●私たちがめざす社会

すべての人々の人権が尊重され、一人ひとりが性別にかかわらず、自立した個人として、個性と能力を十分に発揮することのできる社会であり、それぞれが多様な生き方が認められる社会をめざします。

●家庭・地域の重要性

男女が共に家庭、地域の一員としての責任を果たしながら、職業生活や余暇活動などバランスのとれた生活を送ることができるとともに、社会をめぐらします。

●総合行政としての取り組み

健康、福祉、教育、文化、雇用、産業、地域づくりなど社会のあらゆる分野における取組が必要ことから、関係部門の連携により総合的に取り組めます。

●市町村、事業者、県民との協働

県民や事業者みなさんの役割が重要となるため、県は、市町村や事業者、各種団体、県民のみならずの主体的な活動を尊重しながら、必要な支援を行うとともに、連携して男女共同参画を推進します。



実施計画の策定

基本計画に基づく施策を着実に実施するため、平成14年度から平成16年度までの3年間を期間とする「三重県男女共同参画基本計画第一次実施計画」を同時に策定しました。

実施計画では、できるだけ具体的な事業を掲げるとともに、基本計画の体系に沿って、40の目標項目を設定しました。

実施計画に設定された目標（抜粋）

目標項目	現状値	目標値(H16年度)
男女共同参画意識普及度	54.0% (H13年度)	59%
県の審議会等への女性委員の登用率	26.9% (H13年度)	32%
農村・漁村女性アドバイザー数	119人 (H12年度)	180人
ファミリー・サポート・センターの設置数	1 (H13年度)	10
介護保険制度利用率	79.1% (H12年度)	81%

特集 家族



「家族」

「」の言葉から何を思い浮かべますか。



家族の意味が幅の広いものであるうえ、いわば経験上の「家族」が千差万別であることから、その思いも多様なものになるでしょう。

現在、核家族の増加や少子・高齢化の進展などによって、家庭や家族のあり方が大きな課題になっています。

男女が、性別にかかわらず、誰もが自分らしく生きることができ、男女共同参画社会の実現のためには、生活の基本的な場である家庭、そして家族のあり方がキーポイントの一つではないでしょうか。

今年の三重県男女共同参画センターの年間テーマを「家族」としました。男女共同参画の情報誌「フレンテ」でも「家族」をテーマに3回にわたって特集を組み、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

もちろん、家族のあり方として、ある一定の家族像を語ろうということではありません。男女共同参画社会は、性別にかかわらず、多様な生き方を自ら選択することのできる社会です。当然、家族のあり方も多様であっていいはず。

特集その1: 家族あれこれ

今回の特集では、様々な家族の姿を通して「男女共同参画」と「家族」について考えてみたいと思います。

登場するのは、どこでもよくあるような家族ですが、考え方や、言葉に自分自身と共通した「何か」を感じ取ることもできるかもしれません。

はじめまして。大学3年生のヨシダです。

皆さんと一緒に、この「フレンテ」を通じて、「男女共同参画」と「家族」について考えていきます。

最初に、少し自己紹介。

僕は、大学で男女共同参画について勉強しています。その中で、自分自身の家族の生き方を男女共同参画の視点で考えるようになりました。

先生からは、「いろいろな家族を知ることが、自分の家族を理解する一歩になるのでは」というアドバイスを受けました。

さあ、「家族あれこれ」のはじまりです。



ヨシダ君の指導教官のオザワです。ヨシダ君そして皆さんと一緒にいろいろな家族を見ていきます。

